

富里市地域公共交通計画の進捗状況について

資料2

〈令和5年4月から令和6年10月までの事業の進捗状況について下表に示す〉

目指すべき姿	No.	事業	事業の概要	取組状況	今後の展開
【目指すべき姿1】 地域全体を見渡し、市民のニーズにマッチした、富里市に合った最適な公共交通を目指す	1	民間バスの路線維持・拡充	周辺都市への連絡及び市内の骨格となる路線バスについて、引き続き路線の維持・拡充を図る。	○令和6年4月から公共交通機関の運転手確保及び運転手の就労継続を支援するため、県外から市内に移住し、市が指定する公共交通事業者へ運転手（正社員）として就労し、本市に定住する意思のある55歳未満の方に対して富里市公共交通確保維持支援金の交付を開始した。 ○10月末日時点では申請の実績はありません。	○令和6年度より公共交通確保維持支援金の交付を実施しているが、効果等を検証し、より効果的な支援策について研究するなど、今後も公共交通の維持に向け、公共交通事業者と連携し、取り組んでいく。
	2	さとバスの見直し	市民のニーズ調査結果を踏まえ、新たなデマンド交通に転換する。	○令和4年10月1日デマンド交通へ転換	
	3	デマンド交通の拡充	利便性の向上を目指し、乗降ポイントの増設や運行エリアの拡大などの拡充を図る。また、高齢者に優しい地域交通を目指し、ドア・ツー・ドア方式について実証運行による検証を行う。	○令和6年6月から多くの利用者から要望を頂いていたデマンド交通（キャロリン号）のWeb予約を開始した。 ○令和6年6月に乗降ポイント1箇所追加（10月末時点乗降ポイント187箇所）	○持続可能な公共交通の実現のため、利用者数の推移・利用実態・ニーズ調査、費用対効果等の検証を行う。
	4	交通ネットワークの強化	民間路線バス、タクシー、デマンド交通などの接続ポイントとして、市役所等を交通結節としての機能強化を図り、一体的な公共交通ネットワークの形成による利便性の向上を図る。	日本大学理工学部交通システム工学科とともに市役所等が交通結節点となるか調査、研究を開始した。	○市役所等の結節点強化の必要性について整理する。
	5	福祉移送サービスの充実	移送サービスや福祉タクシー料金助成が実施されているが、利用条件が限定されているため、条件緩和を検討するなど、公共交通と福祉サービスの連携を図る。	○移送サービスについては、市委託事業者に加え、民間事業者による福祉有償運送サービスも運行している。 令和5年度 富里市移送サービス 利用者数 延べ978人 令和6年10月から運行台数2台から3台体になり、介護予防に資する事業等を実施する施設などへの送迎を可能とした。 ○福祉タクシー料金助成については、令和5年度利用件数は延べ1,098人、利用人数は198人。令和6年3月末日現在の指定タクシー事業所数は、全体で42事業所（市内4・市外38） ○福祉有償運送の2社のR5年度の年間利用者数 富里市2事業者 合計142人	○移送サービスについては、引き続き運行中の福祉有償運送サービスを活用した外出支援策について推進する。
	6	スクールバスの見直し	小学校統廃合に伴うスクールバスの運行を継続するとともに、登下校時間帯以外の空き時間の活用方法や混乗の可能性等について検討する。	○地域公共交通に関する研究会においてスクールバスの多様な輸送（病院送迎バス・自動車教習所送迎バスど）について検討した。	○現状では混乗は困難であることからスクールバスの運行を継続していく。 ○引き続き児童の推移や輸送方法など調査し、代替えの可能性について検討していく。 ○今後、民間路線バスが普及する場合は、そのバスを児童が優先的に利用できる補助制度等を検討する。
	7	成田空港へのアクセス	成田空港の機能強化に伴い、その効果をまちづくりにも活かすべく、空港利用者、勤務者等の交通手段の確保を目的とし、広域交通手段として空港へのアクセス方法を検討する。	○日本大学理工学部交通システム工学科と成田空港へのアクセス方法について調査、研究を継続して実施中	○成田空港への乗り入れについては、路線バス、デマンド交通などの様々な交通手段を含め、公共交通事業者と連携し、効果と課題を整理し検討する。
【目指すべき姿2】 地域参加による、地域が自らデザインする持続可能な公共交通を目指す	8	地域主体による新たな公共交通の導入に向けた取組	地域の共助による自家用有償運送事業等の検討を行う。	○市内組織である「富里市地域公共交通に関する研究会」「日本大学理工学部交通システム工学科包括連携事業」において、グリーンスローモビリティの導入について研究を行った。	○地域の共助による自家用有償運送事業を推進する。
	9	交通事業者と連携した新たな交通システムの展開	デマンド交通の予約を解消することを目的に、乗合タクシー事業※を検討する。 ※決まった時間にタクシーが団地に停留しており、電話等の予約なしで利用可能なタクシー。	○デマンド交通の予約に関する事務負担を軽減するため、令和6年6月26日からデマンド交通のウェブ予約を開始し、令和6年9月末日時点のウェブ利用者数延べ1,309人となった。 ○日本大学理工学部交通システム工学科と協力して、Web予約システムの使用方法について利便性向上を一層図るための研究を開始した。	○Web予約システムの操作の見直しや表示方法の修正、また、様々な端末での確認を行うなど、Web予約システムの利用利便性の向上を図る。
	10	富里市独自のモビリティサービスの検討	新たな移動システムであるグリーンスローモビリティ等を活用した地域主体の取組を検討する。高速バスの空いた荷物スペースを活用し、市の特産品を都市部に運搬することで、生産者の販路拡大やバス事業者の収益確保を図る。	○「地域公共交通に関する研究会」において貨客混載事業の調査、研究を継続中 ・千葉交通㈱、JA富里市、都内商工業者と協議中	○「地域公共交通に関する研究会」で調査、研究を重ねてきた貨客混載事業を実現できるよう交通事業者、商工業者と協議を重ねる。
【目指すべき姿3】 公共交通への市民の理解や関心を高める仕組みの構築を目指す	11	利用促進のための意識醸成	公共交通を日常的な交通手段の選択肢としてもらうために、利用促進に向けた取組を進める。	○市内公共交通の利便性向上と更なる制度周知を目的に公共交通マップ「まるっと富里」を作成、2,000部を商業施設、公共施設に配架した。	○公共交通の利用者からのフィードバックを収集し、サービスの改善点の洗い出しを行う。 ○富里市公共交通マップ「まるっと富里」増刷の対応を検討する。
	12	モビリティマネジメントの実施	バスの乗り方教室や出前講座の実施など、交通事業者や市民と協働して、地域に公共交通利用の大切さを普及する活動を展開する。	○令和6年度とみさとふれあい講座を開催（デマンド交通利用方法など）4団体：参加者69人（令和6年10月末時点） 北部コミュニティセンターにてデマンド交通利用に関する説明会を実施 参加者64人	○今後も地域公共交通の利用促進のための活動として、とみさとふれあい講座など市民が集まる場において更なる制度周知と利用促進を図る。